

第4回瑞浪市市民まちづくり会議 会議録

■日 時 令和8年8月21日（金） 18時～19時35分

■場 所 瑞浪市役所西分庁舎1階会議室

■出席者 【出席委員】

高野雅夫 委員 後藤誠一 委員 柴田洋子 委員 渡邊啓介 委員

本荘恵子 委員 伊藤愛理 委員 石川敏美 委員 水野智文 委員

【欠席委員】

柴田阿姫 委員 板垣真裕美 委員 足立美樹 委員

【事務局】

加納宏樹（みずなみ未来部長） 奥谷ひとみ（市民協働課長）

吉田和史（市民協働課まちづくり支援係長）

大高まりあ（市民協働課まちづくり支援係）

■議 事

1. あいさつ

高野会長よりあいさつ

事務局より会議成立を報告（委員11名中8名の出席により過半数を満たした）

2. 議事 取組検証：地域学校協働活動の体制整備について（生涯学習課）

1) 担当課より説明

説明者 <資料に基づき説明>

事務局 本事業に参加された市民の方へ事務局より質問させていただくため、瑞浪小・中学校を担当される地域学校協働活動推進員の方にお越しいただいた。

市民の立場としてどのような活動を行われたのか、話していただきたい。

参加市民 まずは朝の声かけ活動がスタートし、令和3年から行っております。地域の各長寿会代表に直接お会いし、コミュニティ・スクール活動としてあいさつ運動の協力をお願いした。朝、玄関前で構わないので、通学路に顔を出していただいてあいさつを行っていただくようお願いをしました。

また、小学校での草取り、植栽活動を行った。フジバカマを植え、アサギマダラという蝶々が寄ってきたのを確認でき、子供たちに自然を感じてもらえた。

今年は6年生ミシン学習があり、私も授業に参加させていただいた。私のことを全く知らない子供も学校内にはいることから、一緒に活動することで学校の関係者であるということがわかるようにと参加したが、普段から子供たちと関わりを持つようにしている。

事務局 活動を行って、よかった点、改善点などがあれば教えていただきたい。

参加市民 子供が学校を卒業してしまうと、関わりが無くなってしまいうことが一番困った。解決方法がないか先生と相談した結果、先ほど言ったミシンや手縫い実習をイベントのような形で提案し、地域の方、例えばお母さんやおばあさんと呼ぶことを考えた。

元々は地域に開かれた学校という考え方だったが、二、三年前からは、地域と共にある学校へということで考え方を変えている。

事務局 最後に、活動の中での市への要望などがあれば教えていただきたい。

参加市民 推進員が瑞浪地区、瑞浪小・中学校で私一人という状況なので、対応できないことがある。できたら、例えば小学校、中学校に1人ずつと、その二人をリードする推進員のようの方が教育委員会などにいる体制だとありがたい。

2) 質疑応答

委 員 推進はどうやって決められたか。まちづくり推進協議会の役か。

参加市民 私は瑞浪地区の集落支援員として勤めていたため、最初に話をいただいた。

委 員 何か人を増やす手段がないか。大変ご苦労されているということがよく分かったが、あて職など、人を探せるような方法はないか。

参加市民 決して自分1人でやっているわけではなく、学校運営協議会の中の16名の委員にも活動いただいている。ただ、コミュニティ・スクールの推進については各学校1名ずついると有難いと思う。

委 員 すごく努力されて、学校のために働いてくださるというのはとてもありがたいと思っている。学校からコミュニティ・スクールの手紙などが届くが、見落としてしまうこともある。内容を深く把握していないなど、一番助けていただいている側なのに、そういう皆さんの思いをくみ取れていない状況で申し訳ない。

参加市民 コミュニティ・スクール活動は、学校、保護者、地域の方など、みんながやっていかないと大変である。保護者の方に理解していただくために、小・中学校の役員会に参加するなど会長とコミュニケーションをとっているが、中々活動が知られない、理解していただけない状況。

委 員 推進員が学校運営協議会に参加されるということだが、学校運営協議会とPTAはどのように関わっているのか。

参加市民 学校運営委員会には、育友会長さんに参加していただき、色々協力いただいている。地域学校協働活動というのは、一つのコミュニティ・スクールをみんなでやるという場所のことだと思う。そこが瑞浪地区はまだみなさんが理解しきれていないと感じるので、もっと市民の方に分かってほしいと思う。

私もPTA役員をやったことがあるが、長くても3年程度だと思う。このコミュニティ・スクールというのは、5年、10年、15年かけてもいいと思っている。時間をかけて、子供たちを地域でも育てていかないと、学校の先生は大変だと思う。

例えば通学路の草刈りを行う時に、地域のおじさん、おばさん、おじいさん、おばあさんが子供や学校の先生たちと一緒にやって行い、育てるのがコミュニティ・スクールということではないかと思う。

委 員 子供たちや保護者の方と接しられていて色々な声を聞くと思うが、印象深かったことを教えていただきたい。また、そういった声を推進員の方が聞かれて、どう思われているか、やりがいなどがあればぜひ教えていただきたい。

参加市民 4月から新1年生入り、5月の連休までは子供を小学校から送って行かなければいけないが、授業が昼間で終わるため、その時に子供を送ってきた。そこで一番うれしかったのが、私の名前を呼んで抱きついてきてくれること。それが本当に、やってよかったなと思ったこと。自分は歳をとっているが、これが生きがいなのか喜びなのか、元気の素だと思っている。

委員 行政側にも話を伺いたい。コミュニティ・スクールは、学校だけで解決できない課題の解決なども目的の一つだと思うが、実際に学校側は助かっているか。

説明者 実際、学校側では感謝しかない。あいさつについては学校で教えるが、地域では知っている人であっても中々あいさつができない。そこで地域から声かけをしてあいさつを促していただけるのは大変ありがたい。また、授業に入ってもらえると、先生の得手不得手があるため、できる方に入ってもらってとても助かっている。本当にありがたいというお声しか聞いていない。

また、瑞浪市がこのコミュニティ・スクールを導入されるという時にどういう反応だったかという、市内各地区にあるまちづくり推進組織が既に担っている事業もあるため、必要ないのではないかという声も聞かれた。しかし、実際はまちづくり推進組織と推進員の中では、子供たちと行いたい事業に違いがあり、生涯学習課、教育委員会等で調整をどうしていこうかというようなところが今、議題となっている。

委員 まちづくり推進組織から見ると負担ではないか。まちづくりの方はどのように役をやっていくかなど、課題なのかと感じる。

委員 心のアンケートを毎月学校が行っており、地域の人との関係についての質問もある。その際、地域の人との関係ができていると自信を持って回答している子供が多かったが、その結果を見て、どのように関わりをとれているか疑問ではあった。今日話を聞いてどのように関わっていたかわかり、本当にありがたいと感じた。子供たちが安心して生活できているということで、感謝している。

3) グループワーク

4) まとめ

グループ内で意見交換、各グループの意見発表、委員ごとに事業評価

1 グループ	2 グループ
○感想、特に評価すべき点 ・推進員の方が大変 ・何のために行うか、目標は何か ・学校現場の課題が共有されているか ・教室の中での教育方針、内容に地域が意見を言える立場だが、地域側の力も必要 ・学校の負担軽減 ・学校、保護者の負担減になることはよい ・PTAの負担感はどうか	○感想、特に評価すべき点 ・理想は地域も学校も発展すること ・子ども、大人の「楽しい」 ・子どもと大人の学び、成長 ・子どもたちも安心している ・見えないところでの努力 ・子どもたちのため活動して下さることに感謝

・地域との関りが少しでも増えると、子どもの安全と情緒的な成長が安心 ・地域と学校の距離が近くなった ・子どもと地域の繋がりが深くなった ・子どもと先生が地域に出てくる機会があるのか ・子どもたちが将来地域の担い手になるためにはどうすると良いか ○改善点等（行政側） ・参画しやすい仕組み、組織づくりと広報 ・周知不足 ・自治会へアプローチできないか ・まちづくりと一元化できないか ・学校格差の是正サポート ・予算がない ・若年層、学生、当事者、子どもの参加 ○改善点等（市民側） ・まだ地域住民にコミュニティ・スクールが認知されていない。 ・コミュニティ・スクールへの認知、理解 ・ボランティアや部分参加 ・活動内容が学校主導になっている ・まちづくり推進協議会のメンバーはあて職が多く、1、2年で交代してしまう ・継続的な参加が難しい（特に保護者） ・年齢層の差がある	○改善点等（行政側） ・福祉と教育の間 ・推進員の支援 ・広報、PRの多様化（SNSの活用） ・地域の方へのコミスク周知 ・まとまりにくい地域への周知方法 ・現場の意見はどうか（子ども、PTA） ○改善点等（市民側） ・協力したくても実情は難しい ・現実には余裕がない ・保護者の理解をどうするか ・保護者、住民の持続的な参加・参画 ・推進員の活動のしやすさ、活動の支援
--	--

3. 閉会のことば

加納みずなみ未来部長より閉会のあいさつ